

## 平成29年 第1回定例会 3日目

- 議長 堀 広一 ただ今の出席議員は10人です。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

13日に引き続き会議を再開いたします。 (午前10時00分開会)

直ちに本日の会議を開きます。 (午前10時00分開議)

議事日程第3号はお手元に配布のとおりであります。(別紙のとおり)

- ◎ 日程1番 会議録署名議員の指名

- 議長 堀 広一 日程1番 会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員の指名は、会議規則第127条の規定により議長において

楠 順 一 議員

我 妻 耕 議員

の兩名を指名いたします。

- ◎ 日程2番 一般質問

- 議長 堀 広一 日程2番 これより一般質問を行います。

- 議長 堀 広一 順番4 楠 順一議員、発言願います。

- 議員 楠 順一 通告に基づき、質問をさせていただきます。第1点目、地方創生総合戦略事業における国の交付金の活用について質問させていただきます。本題に入る前に、今回の質問を考えると、ちょうど6年前ですが、この3月定例会開会中に東北大震災がありました。もう6年も経ったのかということで、TVの報道等も見ながら感じていたわけですが、マスコミでは特集番組がされており、被災地の方々が厳しい状況の中で希望を失わず毎日笑顔で頑張っている姿を見た時、本当に頭が下がる想いで、私たちに何ができるというわけではないかもしれませんが、何か応援できればという気持ちがいっぱいあります。翻って、わが町を振り返ったとき6年前と何が変わったのかと考えてみました。2011年の本町の人口は住民基本台帳ベースで3,814人でした。6年後の2017年3,415人、399人減っています。これは、うちの町だけでなく日本全国の現象ではありますが、私も一議員としてこの6年間何ができたのか、何をやってきたのかということで、非常にもどかしい想いをしております。この危機感を我々議会、理事者、役場、町民みんなが共有していかなければならないと強く感じたところがございます。次世代に残せるまちづくりをどうやっていくのか真剣に考えて取り組んで行動していくときであると感じております。さて、上坂町政が始まって昨年10月町長に就任され5箇月経ちました。最初の町政執行方針、予算編成になると思います。副町長も変わられ私の印象ではとりあえず安全運転でスタートされたと感じております。むしろそうであればこそ、この1年は本当に大事な1年というよりも

来年の予算編成が始まるまでの約半年が本当に大事な時期であると思います。具体的に今、何にお金を使うのかということよりも昨年12月の定例会で一般質問させていただきましたが、役場、議会、町民の間の合意形成をどのようにやっていくのかが大事になってくるし、もう一つ、政策形成力をどのように高めていくのかをこの半年間で取り組んでいかなければならないと改めて感じております。即ち、本格的に走り出す前の土台づくり、推進力づくりが今の課題であると感じております。本題に入りますが、総合戦略の進捗状況については、全員協議会でもご報告いただき理解しているつもりですが、通告書に書かせていただきましたが、町政執行方針には「総合戦略事業においても国の交付金の活用は厳しい」と表現されております。しかし平成29年度においても国は地方創生関連予算として様々なメニューを示しており、金額も大きなボリュームになっております。道内でも各市町村で交付金を活用してハード・ソフトの事業に取り組んでいるようです。本町もご存じのとおり自主財源が乏しい自治体であればこそ国の交付金を知恵を使って活用していくことが必要になると思います。そこで、質問ですが、先ほどご紹介した町政執行方針に「国の交付金の活用は厳しい」とありましたが、どういう点が「厳しい」のか。それから、国が求める要件を満たすために本町においては何が課題になるのか、この点についてお伺いしたいと思います。

○ 議長 堀 広一 町長。

○ 町長 上坂 隆一 お答えいたします。地方創生は、国・地方公共団体を挙げた取組みであることは、先ほど議員も言われたとおり平成28年第4回定例会の一般質問でも答弁したところであります。拠点整備交付金等各省庁において地方創生に関連する様々なメニューがありますが、平成29年度町政執行方針で述べた地方創生に関する主たる財政支援である内閣府所管の地方創生推進交付金を念頭に置いたものであります。地方創生推進交付金は、平成28年度に創設され地域再生法で位置付けられた恒久的な交付金であります。この推進交付金の採択条件として国は先駆性・自立性・官民共同・地域間連携等があり、官と民が共同して事業を進め交付金を使って条件整備し将来的には交付金に頼らなくて自立して事業を継続できる事業であることが必須条件となっています。合わせて、地域の雇用の確保や都市からの人の流れを作るとともに、地域の所得を上げる稼ぐ力の創出等も成果として求められております。このような条件の中で本町の創生総合戦略で取り組む事業と照らし合わせてみると、現段階ではこの推進交付金の条件に合う事業がないのが現状であり、このようなことから町政執行方針では「活用は厳しい」と述べさせていただきました。本町の地方創生総合戦略を進めて行く上で、交付金ありきの事業を作るという考えではなくて町の活性化、人口減少抑制の

方策としてみんなで議論して作り上げた創生総合戦略の事業をまず着実に推進していくことが重要であると考えています。議員の言われるように自主財源の少ない本町にとって国の交付金は魅力ではありますが、まず、創生総合戦略の事業を着実に推進し毎年度評価した上で見直すべきものは見直していきたい。そうして見直す中で交付金の条件に合致することとなれば、もちろん、積極的に活用していきたいと考えています。月形町創生総合戦略は、交付金の有無に関わらず、町の活性化、人口減少抑制に向け掲げた目標のため、私は先頭に立って鋭意推進していく考えであります。議会そして町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

- 議長 堀 広一 楠 順一議員。
- 議員 楠 順一 今、町長から答弁があったとおり、先駆性・自立性・官民共同・地域間関連等は、うちのような小さな町でこの要件を満たすというのは難しいと思います。国が求めているのは交付金や補助金によって依存した体質になるのではないかという心配も確かにあると思うのですが、今は国の施策もだいぶ変わってきたと感じるので、そういう意味では、町長の答弁にもあった稼ぐ力、自立する力を付けなさいという方向性になっていますので、交付金を活用したからといって、それに依存した体質になってしまう、過去には厳しい財政状況に陥った自治体もありましたが、その反省があると思うのです。そうした中では、確かに頼らないでやればいいのですが、きれいごとでは済まないわけで、お金がなかったら何もできないのが現実です。お金を活用することによって町民が少しでも幸せになって福祉が向上するのであれば、何も恥じることはないと思うのです。町民のためになるのであれば、そのために役場職員も知恵を絞って汗を流してもらわなければならないと思うのです。そういう意味で、正直申し上げて執行方針に「交付金の活用は厳しい。」と記載があること自体が残念だった。なぜ、あえてここに「厳しい」と書かなければならないのか。もう一つ、厳しい質問になりますが、ここに「厳しい」とあえて書いたということは、交付金の活用については今後検討するで、本気で検討するつもりがないのか、正直に答えていただきたいと思います。
- 議長 堀 広一 町長。
- 町長 上坂 隆一 先ほどもお答えしましたが、私は見直す中で交付金の条件に合致することになれば積極的に活用していきたいとお答えしました。けして、役場職員は交付金の事務手続き等繁雑だし交付金なんかいらないと考えている職員は誰一人いません。昨年、作った事業をその後にも議員から通告されていますので、その中でもお話しさせていただきますが、その推進のため、議員も言われていましたが、4年のうちの5箇月も経過しましたが、職員と一緒に鋭意前へ進むべく努力をしていますので、あえて書いて期待して交

付金ありきで事業はやらないということを言いたいわけではありませので、ご理解、ご支援、ご協力を宜しくお願いしたいと思います。

- 議長 堀 広一 楠 順一議員。
- 議員 楠 順一 この点については、理解しました。私の想いとしては言葉が悪いかもしれませんが、釘をさかせていただいたということで、受け止めていただきたいと思います。町長の答弁も実質的に第2点目の質問に入っていますので、第2点目の質問に入りたいと思います。月形町創生総合戦略の見直しについてですが、「総花的」と感じたと語弊があるかもしれませんが私の印象です。それは、当初から当時の町政における情勢から思い切った施策を明確に打ち出しづらい状況であったことも理解しますので、それは、やむを得なかったという気がしております。幸いにして项目的にかなり網羅されていますので、そこから重点を絞るあるいは優先順位を付けるなどして戦略を実行していく条件は、きちんと準備されていたと感じており、そういう意味では評価したいと思います。その網羅的な項目でこれから先ほど国の交付金の活用も含めて、町長が言われる「誰もが安心して豊かに暮らせる共生のまちづくり」をどのように実現していくのか。それは、かなり難しいある意味方程式になるかもしれません。先ほど言った国の交付金の様々な条件があるので、それに今上坂町長が掲げる政策をどのように組み合わせる国を交付金を活用することについては、難しいことがあると思いますが、ぜひ、挑戦していただきたいという想いでおります。とかく、今まで、町の計画は、一般町民も言われているのですが、計画して終わりとなるのが今までのパターンではなかったのかなと言われております。それは皆さんには耳障りの悪いことでありますが、実際に町民はそのように感じていることも事実であります。けれども、今回の戦略については、戦略というからにはある意味戦う手段ですから、戦略を作って終わりということにはならないわけで、それに基づいて行動していくことになるわけです。ですから、国もその行動に対してPDCAサイクルでプランして実行してチェックして評価して繰り返していくことを求めているわけです。確かに難しいと思いますが、私は、国の政策の全部が正しいとは思いませんが、今の地方自治体に求められていることなのです。やはり国が言うからではなくてやっていかなければならないと思うのです。そういう意味で、何でもかんでもできるわけではないので、質問に戻りますが、先ほど総合戦略を「総花的」と評しましたが、網羅的になっているものをどのように絞り込んで優先順位を付けて予算財源的なものを確保して実行していくのかということをお問われていると思います。最初に申し上げた就任して5箇月やっとならから本格運転に移っていく準備段階として、総合戦略の見直しについて、どのように考えるか、伺いたいと思います。

- 議長 堀 広一 町長。
- 町長 上坂 隆一 ただ今議員から評価していただいていると言われましたので、職員も喜んでおりますし、私もうれしく思っております。議員もご承知のとおり、月形町創生総合戦略は平成27年度から平成31年度までの5箇年計画期間として昨年の2月に策定しており、月形町人口ビジョンを踏まえて策定したものであります。総合戦略は、国で示した策定にあたって留意すべき事項に留意しつつ策定したものであり、本町では雇用の創出、移住定住交流の促進、子育て環境の充実、快適で安全な暮らしの確保の4つを総合戦略の基本目標としたところであります。そんな意味で、議員も言われていますが、一面「総花的」で骨格となる施策が分かりづらいという側面があるかと思いません。しかし、総合戦略の策定においては、未成年者を含めた町民や事業所さらに町外への転出者などを対象とした移行調査に加え、町内の団体とのヒアリング結果などを基に町の課題を整理して施策の検討を行ったものであります。また、月形町創生総合戦略審議会委員長以下15名の皆さんにおいて策定初期の段階からご審議いただくとともに、総合戦略案の段階では、議員各位からもご意見をいただき、最終的にパブリックコメントを経て策定に至ったものであります。こうして町民の皆さんからの意向も伺い策定した本町の総合戦略が「誰もが安心して豊かに暮らせる共生のまちづくり」を進めるにあたって、内容的に不十分である、大切なことが欠落しているとは思っておりません。総合戦略に掲げた具体的な事業については、平成28年度は全体の7割弱の制度化・予算化でしたが、平成29年度においてはそれが9割を超えることになっております。今、大事なことは、残りの事業の制度設計を仕上げて早くに制度化・事業化すること。そして、すでに進めている事業の効果検証をしっかりと、先ほど議員も言われていたようにタイトルに基づいて検証していくことが大事なことでありと考えております。総合戦略の基本目標や数値目標、こうすべき施策に関する基本的方向などの見直しについては、月形町人口ビジョンとの関係もあり慎重な対応が必要となりますが、具体的な事業や制度を追加していくことは、容易に可能と考えております。毎年しっかりと内部で検討を行い、町民の皆さま、議員の皆さまのご意見を伺い、しっかりと見直しを行って推進していきたいと思っております。どうか、月形町創生総合戦略の推進に特段のご理解とご協力を賜りたく、お願い申し上げます。
- 議長 堀 広一 楠 順一議員。
- 議員 楠 順一 評価させていただくということは、上から目線みたい聞こえるかもしれませんが、戦略というのは答案用紙ではないと思うので、何か答案用紙としてよくできているみたいな受け止め方をしている人が多いかもしれませんが、戦略ですから実行しなければならないのです。確かに私の

見直しという言葉が適切ではなかったかもしれませんが、もう少し具体的に言うと、絞り込み、重点化、どこに重点を置くのかということ。それと優先順位をどうするのか。この二つを聞いたかったのです。それは、町民の審議会の方も含めて色々なアンケートも取って出てきたものですから、かなり町民のニーズ、各界の方々の考え方は網羅されていると思いますが、実際にそれを受け止めて町長が限られた予算を使って、場合によって国の交付金も使ってやっていくということは、国の総合戦略の政策の究極の目標は何かというと、人口減少ビジョンを先に出させて総合戦略を書かせたわけです。人口減少ビジョンに基づいた町の政策をどのようにしたら人口を減らさないで町を存続させるのかということを経済戦略でやりなさいということであるのです。だから、書いたものを項目1個ずつこれもやりました。あれもやりましたというように答案用紙を埋めていくことは、総合戦略のあり方ではないと思うのです。最終的な目標はどうやって人口を減らさないでうちの町が生き残っていくかということであると思うのです。そういう意味で、絞り込み・重点化そして優先順位を考えていかなければならないと思うのです。そういう意味で、もう一度、答弁いただきたい。

○ 議長 堀 広一 町長。

○ 町長 上坂 隆一 議員の言われるとおり、重点的に絞り込んでしっかりやっていかなければならないと感じて考えております。そのためには、ややもすると大きな声や多数の人に目が向けられがちですが、町民一人ひとりとひざを突き合わせて皆さんと話し合いをして一人ひとりの小さなことを一つひとつ積み重ねてやっていきたいとお約束しました。これからもまさにたった一人が辛い思いをしている、困っている、このように変えてほしいと願っていることかもしれませんが、それらの声を受け止めて、行政みんなで知恵を出し合い話し合って皆さんとその痛みや悩みを共有して、そのことの実現、ひいては、月形町の人口減少の歯止め、町の発展につながることでありますので、それをしっかり実行していきたい、そのことをお約束したいと思います。

○ 議長 堀 広一 楠 順一議員。

○ 議員 楠 順一 何か上坂節に惑わされそうな気がして、確かに町長が言われるように声を出さない方もいるし色々な町民がいる中で町政は町民にも手を差し延べていくことが大事であることは、その通りであると思います。特に私が思うのは、若い人たちがこの町に残りたいという状況をどうやって作っていくのか。先ほど人口減少のことも言いましたが、そこが究極の総合戦略の狙いではなかとと思うのです。私も若い人たちに色々話も聞きますが、やっぱり今の町に愛着をもって住み続けたいという人が多いです。ただ、どうしても生活面、教育面、仕事面でなかなか条件が満たされないということで、そこに

焦点を当てて先ほど言った重点化、優先順位というものを絞っていくべきではないかと思うのですが、もう一度、その点について、若い人たちに向けてということ、町長の決意をお願いしたいと思います。

○ 議長 堀 広一 町長。

○ 町長 上坂 隆一 これからご審議いただく予算でも若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶えるための政策を企画しております。議員の言われるとおり若い世代の人たちがしっかりと農業や商業を継いで、この町に残ってお年寄りを支えていくということが重要なことであると思っています。私は、月形小学校6年生の皆さんと出前町長室で懇談させていただきました。小学校6年生の皆さんが「この月形の町が好きだ。」そして、月形町をもっと良くするためにこんなことを町長考えてほしい。僕たちはこんなことを考えましたということ伝えてくれました。私はとっても力強く心強く思います。それらを受け止めて先ほども言ったように、先頭に立って月形町のまちづくり推進のために、しっかりと町民の一人ひとりの声を聞いてひざを突き合わせて実現していきたいと思っていますので、宜しくご支援をお願いします。

○ 議長 堀 広一 楠 順一議員。

○ 議員 楠 順一 この件については、了解いたしました。私の想いも理解していただいたのではないかと受け止めていますので、宜しくをお願いします。最近、特に商工業の人たちが非常に苦しんでいる状況がありますので、人口減少で一番堪えるのが商業・工業の皆さんだと思いますので、宜しくご理解願いたいと思います。第3点目に入りたいと思います。昨日、松田議員からJRの質問がありましたが、今回、私は別の視点からJRの問題について質問させていただきたいと思います。JR札沼線を基軸としたまちづくり構想の検討についてということで、通告書に書かせていただきましたが、昨年JR北海道が「単独では維持できない路線」を発表して以来、沿線自治体、北海道、国においてそれぞれ議論が始まってきたところではありますが、わが町としては町長を先頭に存続に向けて努力してきた中で、これからわが町の一体となった力が問われる正念場であると考えております。われわれ住民自身、ひとり一人ができる限りJRを利用することはもちろんであります。他の沿線自治体と足並みを揃えての存続運動について町長は積極的に取り組んでおられます。加えて、大事なのは各自治体がそれぞれの立地条件や考え方にもとづいた独自の取り組みを進めていくことが非常に重要であると思っています。そこで、先日発表された北海道運輸交通審議会地域公共交通検討会議鉄道ネットワークワーキングチームの報告書を紹介させていただきますが、皆さんご覧になったと思いますが「Ⅲ JR北海道の持続可能な経営構造の確立」の中で「3 地域の実情や線区の特性を踏まえた方策」として「各々の地域が利便性の向上や地域に

おけるビジネス機会の拡大などの観点から、あらゆる可能性について検討していくことが必要である。ＪＲ北海道においては、創意と工夫を凝らした地域の提案・取組に対し、積極的かつ柔軟に対応していくことが必要不可欠である。」とＪＲ北海道に対しても道は申しているわけです。その方策の例として「まちづくりと一体となった駅の活性化等々が上げられる。」とされております。これは、我々、沿線自治体に投げかけられた間ではないかと思うのです。ヒントを与えられていると思うのです。ですから、ＪＲ北海道に対して積極的な取り組みをする自治体については、これに対してきちんと答えなさいと言っているわけですから、今、沿線自治体がそれぞれ自分たちのまちづくりや町の中でＪＲをどう位置付けるのかということをお尋ねしているのではないかと思います。その意味で、わが町としては、歴史的にもＪＲがまちの基軸になってきたわけですから、それを今後もまちづくりの基軸に据えた将来構想を描いてそれを内外に示す道やＪＲ、国に対して「うちの町はこのように進んでいきます。だからＪＲと共に将来を作っていきたい。」という姿勢を示すことが問われているのではないかと思います。それが、いかがでしょうか。それと（１）札幌圏とのつながりの観点からということで、札幌圏への通勤、札幌圏からの通勤あるいは札幌圏からの日帰り観光も含めてお願いします。

○ 議長 堀 広一 町長。

○ 町長 上坂 隆一 ただ今、楠議員のご質問の要旨が私と意見の違いがあると思っております。これまで、前櫻庭町長も自ら先頭に立ってＪＲ札沼線の維持・存続を訴えてきました。そして、小さな町である月形であっても重要な鉄道を残そうと懸命に努力している姿をＪＲ北海道はもとより町外の人たちに発信し、現状を知ってもらおうと考えていることでもあります。即効的に利用促進につながっているかと考えると厳しい面もありますが、着実にその成果は少しずつではありますが、出ていると思っておりますし、ＪＲ北海道とのこれまでのやりとりの中でも私たちの取り組みについては、理解を示してくれております。ＪＲ札沼線沿線の浦臼町と新十津川町とは、地理的条件や利用のあり方に違いがありますが、両町と児童交流やイベントの同日開催などもご承知のように行ってきました。本年度も５月から「歴史街道」ツアーの実施など３町連携の事業を引き続き実施していきたいと考えています。このことは、鉄道は、一つの自治体で成り立つものではなくて沿線の町が鉄道でつながっているから鉄道であると言えるのではないかと思います。維持存続の声を上げるにしても多くの自治体に関わることによって、その影響も大きくなると思っております。今後もこの取り組みをしっかりとやっていきたいと思っております。それから、町民の利用促進についてですが、各事業所そして団体にも一層の利用を呼び掛けていきたいと思っております。私もこれまで札沼線を利用してきまし



たが、札沼線を多く利用している人の声を広報等で紹介して札沼線のすばらしさや魅力を町内外の人に知ってもらいたいと思っております。平成29年度予算において、役場職員の出張旅費の算定に当たっては、これまで公用車利用で算定していましたが、かなりの部分、鉄道を使って札幌へ出張することを前提にJR運賃での出張旅費の算定、計上してご審議いただくことにしております。また、石狩月形駅からの上りの始発便は、札幌圏の大学などの通学にも多くの学生が利用されておりますし、月形高校への通学に利用する学生については、これまでどおり重要性をしっかりと伝えていきたい。そして、高校生については、「町長頑張ってもらいたい。鉄道で通学しているこの経験、体験が自分としては有意義であり楽しい。だから月形高校を選んだ。」と言っていた高校生のいます。私は、そのことをしっかりとJRにも伝えていきたいし、色々な報道機関の取材にもそのように答えています。また、先ほどの町民の利用促進の一つに月形刑務所の職員なども札幌方面からの通勤者が多く、月形刑務所付近に駅があれば通勤や受刑者の面会に札沼線が使えるという声もお聞きしました。それらについても、しっかりと考えていきたいし要請していければいいと思っております。先ほど議員が言われた札幌圏の日帰り観光についてですが、すでに事業として実施していますが、月形温泉利用者の石狩月形駅への送迎を開始して、早速、申込みがあり宿泊利用者の増加にもつながっているところであります。こうしたことがこれから鉄道ネットワークワーキングチームの報告書にあるように積極的な増収策など線区の見直し以外の経営改善になくしてはならないと言っていた部分も含めて、この取り組みを途切れなく展開し続け、国・道の抜本的な支援と相まってJR北海道の考え方が変わっていただけることを期待しております。

(宮元議員 午前10時48分退席)

- 議長 堀 広一 楠 順一議員。
- 議員 楠 順一 すでに積極的に取り組んでおられることを知りながらあえて質問させていただいておりますので、ご理解いただきたいと思います。町長の答弁で、月形刑務所の職員で札幌から通勤されている方のお話もありました。これは思い付きで申し訳ないのですが、駅周辺に無料の駐車場を作ってそこからJR通勤に使うなど、刑務所に月形刑務所駅を造ってはどうかというお話もありますが、駅を新設するのはなかなか難しいと思っておりますので、それができないとしても駐車場を整備する、それから、今、温泉までバス送迎されているということで、刑務所までの循環バスをJRとつなげることも検討されてはどうか。それから、先ほど日帰り観光の可能性ということで、日帰り観光についても色々取り組んでいるということですが、JR札沼線沿線札幌都市部の沿線に小学校・中学校・幼稚園がたくさんあると思うので、そういう所から

社会科見学にJRを使って来てもらい、温泉まで迎えに行つてあげることができれば、小学生・中学生から月形に親しみを持ってもらって、その人たちが大きくなって「月形でキャンプしたね。」「ジンギスカン食べたね。」「皆楽公園で遊んだね。」という思い出が「じゃあ、月形高校に行こうか。」というところにつながれば、相乗効果があるのではないかと。これは思い付きで申し訳ありませんが、特にJR札沼線沿線を少し調べてみたのですが、結構な小学校・中学校・幼稚園があるので、社会見学の一環としてJRを利用することも、社会体験になるので、歩いて営業活動もされてはどうかということです。それと、やはり札沼線は我々にとっては札幌圏都市部につながるのですが、逆に都市部の人にとっては、月形のような田舎につながる路線なので、そういう意味では、日常は札幌オフィス街に向かって通勤されている方にとっては、反対に月形に向かってくるということは、非日常のある意味ちょっとした旅ができるという有効な路線であると思いますので、それをどのようにアピールしていくか。我々が必要とするJRだけでなく札幌圏の人にとって田舎とつながっているという価値観をどのようにアピールしていくのかということもぜひ検討されたいと思いますが、その点について、いかがでしょうか。

(宮元議員 午前10時51分入室)

- 議長 堀 広一 町長。
- 町長 上坂 隆一 今、議員が言われたことも含めて維持存続そして利用促進のための取り組みを一層強めていきたいと考えておりますので、宜しくご理解いただきたいと思ひます。
- 議長 堀 広一 楠 順一議員。
- 議員 楠 順一 この点については、宜しくお願ひしたいと思ひます。第4点目の質問に入りたいと思ひます。(2)まちづくりの核としての石狩月形駅の位置付けの観点からということ、一つとして、町内外の交通体系を大げさな言い方になりますが、石狩月形駅を中心にして組立てできないかということ、やはり新篠津のバス・中央バスにしても月形駅を廻っている、町内で高齢化になって車が利用できなくなってきた方のために、もし、これから循環バスを検討するのであれば、月形駅で行き交う一つの拠点として位置付けてはどうかということ。前々から話が出ている私も毎回お話しさせていただいていますが、「まちの広場」という町長が掲げた構想の中に、将来的な構想として商業機能、福祉機能、町民の交流拠点機能を整備してはどうかというお話しがありますが、これは予算も絡むことですから簡単にはいかないと思ひますが、ある程度町民の合意ができれば将来こういう方向に向かっていくという打ち出すタイミングとして、今、JRが取り沙汰されている中で、うちの町は駅周辺つまりJRを基軸としてまちの存続を考えているということ、打ち出

してはどうかということです。この点について、伺いたいと思います。

- 議長 堀 広一 町長。
- 町長 上坂 隆一 この件については、昨年12月の定例会でも述べさせていただきました。先ほど、月形駅を拠点にしての交通体系の組立も含めて、皆さんにお約束をした「まちの広場」としての駅周辺の交流拠点の整備も含めて関係機関とも連携を取りながら、そして、国の制度も付け合わせて早期実現のために努力して、検討していきたいと思いますので、ご支援、ご理解を宜しくお願いいたします。
- 議長 堀 広一 楠 順一議員。
- 議員 楠 順一 この点については、今すぐ結論や具体策とはならないですが、基本的な方向としては一致していると思いますので、ぜひ取り組みを進めていただき、私も微力ながら力を尽くしたいと思っております。少し話がズレるかもしれませんが、今、月形町、浦臼町、新十津川町の3町で期成会ということで進んでいます。常々、疑問をもっていることで、色々な昔からの流れがあると思うのですが、当別町との関係で、ご存じのとおり私は当別町の堺に住んでいますので、当別町の住民、中小屋地区の住民と色々な交流があって、お話しも聞きます。それから、私自身も中小屋駅の方が利用しやすいということもあります。やはり、当別町民も不安に思っているのです。そういう意味では、当別町の存在というものを月形町でも地域的なニュアンスの差はあると思いますが、当別町の住民としたら学園都市線、医療大学から向うの住民と札幌寄りの住民と月形寄りの住民とでは、この問題に対する危機感が違うということがありますので、そういう意味で自分の住んでいる所の事情ばかりを言うわけではないですが、当別町との連携も大事であると思うのです。その点について、微妙な過去の経過もあるので、答えづらいかもしれませんが、ただ、もう過去のことにはこだわっている時代ではないのではないかと思います。聞くところによると、当別町の町長もこの問題について非常に関心をもって積極的に発言されているということなので、これについては、何とか月形町の立場として当別町も含めた取り組みを考えてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。
- 議長 堀 広一 ただ今、楠議員から、通告書とはちょっと違う内容の質問が出ましたので、この件については、町長として答えられる範囲であれば答えていただきますし、この場では難しいということであれば答弁は差し控えたいと思います。町長どうでしょう。
- 議長 堀 広一 町長。
- 町長 上坂 隆一 先ほど、楠議員が新十津川町、浦臼町、月形町と3町の期成会と言われましたが、期成会等はまだできていませんし3町でそのよう

な合意・確認しているわけではございません。ただ、これまでの経過の中、3町で色々な取り組みをしてきたところで、昨日も説明したとおり、それから、ご承知のように北海道庁は鉄道ネットワークワーキングチーム報告書が発表されて以来、いち早く全道で沿線の4町、石狩振興局長・空知総合振興局長も含めて4町に対して説明等もありましたので、今後は、色々なかたちの中で、これまでの経過は経過として今確認されているツアーの取り組みなどについては、3町で引き続き取り組んでいきますが、今後の道の方向性がどのようになるか分かりませんが、先般の動きでは4町ということは、議員の言われるようなことの中で札沼線沿線4町ということで、進んでいくのではないかと期待しているところであります。

- 議長 堀 広一 楠 順一議員。
- 議員 楠 順一 参考までに札沼線の歴史のことについて、私は歴史好きなものですから札沼線の歴史を見ると「都心を結ぶローカル線」というホームページがあって、それを見ると、最後に「JR札沼線を都市路線と地方ローカル線の共存路線」と言っているわけです。「都市路線と地方ローカル線の共存路線」と札沼線の特質をうまく言い表していると思います。当別医療大学から札幌は都市路線になっていて我々の所は地方ローカル線という雰囲気、かなり特徴ある路線であると思うのですが、そこで歴史を振り返ってみますと、札沼線が出来たのは昭和6年でご存じの方も多いと思いますが、最初は沼田町から中徳富、今の新十津川町が開通して、それから順次札幌へ向かって延びてきたという歴史があるのです。最初は都市路線ではなくて石炭の運搬が主であったと思いますが、一番北の沼田町からJRが出来てきた歴史があるのです。そして、私も子どもの頃JRを利用して札幌へ行ったことがあり、中学・高校とJRを利用して通学したわけですが、当時は、私ども地元にも新墾藤学園という女子高があって札幌近郊からもかなりの生徒が通学していて賑わっていて、札幌に向かって行きますと、石狩川を渡ったら釜谷臼駅があって、今はあいの里公園駅ですが、あの頃は釜谷臼駅から乗り降りする人は、見たことがなかったのです。その後、篠路、新琴似、桑園、札幌に行くという子どもの頃の思い出があるのですが、その時の感じですと札幌市内の篠路やもちろん釜谷臼も含めて利用する人は我々の方よりも少なかった気がするのです。これは、たまたまその時だけだったのかもしれませんが、何を言いたいのかというと、生い立ちから始まって札沼線は地方から始まって地方のための路線だったわけで、それが札幌まで延びて、それがあるとき宅地開発で昭和50年代から駅がどんどん新設されて都市近郊路線という役割が出てきて、今に至っているということで、自分たちに引き寄せて言えば、我々が札沼線を利用してローカルで維持してきたからこそ札沼線は存続して、今、たまたま都市開発されて住民や

駅が増えて、今や私の聞くところで間違いかもしれませんが、JRで唯一の黒字路線となっているわけです。そういう意味、恩着せがましく言えば、今、札幌都市圏で儲かっているから今まで維持してきた末端をトカゲのしっぽを切るように切っているのだから。これは、商売をやっているJRの立場からしても、もちろん公共交通の路線としてもそういう歴史をもう一度振り返って考えていただきたいというのが、私の想いです。ですから、我々も利用しないとやっているわけではないし、もういらないとやっているわけではないし、利用したい。最初にご紹介したホームページを書かれた方が「都市路線と地方ローカル線の共存路線」と1本の線路でそれがつながっているユニークな札幌線であると思うのです。そういう意味をもう一回歴史も振り返って、たまたまこちらの人が減って寂れてきたからパツツと切るのではなくて、将来、何が起きるか分かりませんから、新幹線だって札幌まできたら要するに札幌から東京まで日帰りで行ける条件になるわけですから、そのようなことも考えたら一時の流行り廃りではなく、もう少し長期的に考えて札幌線を見てほしいということをお願いいたします。これについては、もし答弁できればお願いしたいと思います。

- 議長 堀 広一 暫時休憩いたします。 (午前11時06分休憩)
- 議長 堀 広一 休憩前に引き続き会議を再開いたします。 (午前11時07分再開)

- 議長 堀 広一 特に町長から答弁はないということです。
- 議長 堀 広一 楠 順一議員。
- 議員 楠 順一 常日頃、思っていたことで、折に触れて話題に出たときには、参考にしていただきたいと思います。

- 議長 堀 広一 暫時休憩いたします。 (午前11時08分休憩)
- 議長 堀 広一 休憩前に引き続き会議を再開いたします。 (午前11時15分再開)

- 議長 堀 広一 順番5 金子廣司議員、発言願います。
- 議員 金子 廣司 通告に基づき質問します。町立病院経営体制の見直しについてです。町長は町政執行方針において「平成29年度においては、経営体制の見直しの観点から、経営の効率化や医療提供体制の確保について検討してまいります。」と述べておりますが、管内の公立病院においては、病院の機能を見直ししている旨の報道もあります。近間では1年間掛けて診療所

老健施設という病院もあります。また、病床数もしくは機能を見直して新たな新病院という病院もあります。そこで、経営体制の見直しの視点は、どのような視点を言われているのか。仮にと言いますが、診療所と近隣がそういう方向に向かいつつありますのであえてお聞きしますが、診療所を考えた時に入院患者への対応又診療科目はどのようになるのか。また、ここで一番問題になるのは、固定医師の確保であります。その方策は持っておられるのか。さらに一歩進めば運営主体について、民間という委託も視野にあるのか。さらに見直しは、いつ頃までにされるお考えを持っておられるのか。また、ちょっと大きなことになるのですが、院長におかれては、長年月形町の医療に携え町民のためにご尽力いただいております。この方の去就についてはどのように考えているのか。最後にこれは診療所と仮定した場合、うちの病院の建物の活用方法を考えておられるのか。以上をお聞きしたいと思います。

○ 議長 堀 広一 町長。

○ 町長 上坂 隆一 ただ今、金子議員から簡潔に、なお、厳しい観点でのご質問がありましたが、お答えさせていただきます。北海道が策定した北海道地域医療構想は、医療のあり方や人口構造の変化に対応したバランスの取れた医療提供体制を構築することを目指して、平成37年における病床の機能区分ごとの必要量を定めるとともに、その実現に向けて、病床機能の分化及び連携の促進、在宅医療等の充実、医療・介護従事者の確保・養成等の方向性を示しています。このため、北海道内の各自治体は、この構想を尊重しながら取り組みを進めています。月形町におきましてもこれらの状況を踏まえるとともに、今後とも地域の医療を確保していくとの視点に立ち、見直しを行ってまいりたいと考えております。また、現時点では仮のお話しなりますので具体的には述べられませんが、現在の入院患者数は30人前後であることから、入院患者の抑制や他医療機関への転移を進めなければならないと考えます。この場合においても患者の皆さんに不都合がないようしっかりと進めてまいりたいと思っております。診療科目の見直しについても、患者のニーズや収益性等を考慮しながら検討を行っていかなければならないと考えております。また、一番難しい固定医師の確保についてですが、固定医師のみの問題ではなくて診療の応援、当直の応援などの問題もあります。このため、出張医師の派遣元となる医療機関との関係も大変重要となりますので、慎重に取り進めていかなければならないと考えております。これまでの連携のある札幌医大を含めて確保対策をしっかりと考えていきたいと思っております。また、運営主体についてですが、民間委託についても方向性の一つとして考えていかなければならないと思っておりますが、この場合、安定した運営が前提となりますので、民間委託については特に慎重に検討していく必要が

あると考えております。また、この検討をいつ頃までするのかということですが、方向性については、今年の秋までに結論を出したいと考えております。役場内においては、昨年12月末に運営体制の見直しに係わる調整会議を立ち上げておりますので、鋭意、秋までに結論を出すべくしっかり検討していきたいと考えております。院長の去就についてですが、安達院長におかれましては、長年に渡り、議員も言われていますが、月形町の地域医療の維持発展にご尽力いただきました。大変感謝申し上げます。しかしながら、年齢的、体力的な問題もあるかと存じますので、安達院長とご相談させていただきながら、より良い方向を見出して行きたいと考えております。最後に病院の建物の活用についてですが、町立病院はご承知のように平成6年の建設であります。耐震上の問題もなく平成27年度においては議会の皆様のご理解もいただき、配管等の改修を行っております。まだ、十分に活用できる建物であると考えておりますので、地域医療を優先して建物が有効活用できるように検討してまいりたいと思っております。

- 議長 堀 広一 金子廣司議員。
- 議員 金子 廣司 今年の秋までに方向を見出す、今の時期にこのような質問するのは本当に失礼かなと思っ質問させていただいていますが、やはり、うちの町の町民にとって何が一番いいのか。どのようなかたちにもっていったら医療体制がしっかりできるのか。それは、やはり、難しい問題であると思いますが、秋という期限にこだわると無理が出てくる可能性があります、あまり事を急ぐのではなく周りの状況をつかみながらきちんとよい方向へ、調査・研究をして、答えを出してほしいと思います。私そして皆さんも年々年を取って行きますので、いずれはお世話になることとなりますので、地元で病院という医療施設が無ければ町民は大変困りますので、前向きそして調査研究をしてよい答えが出ることを期待します。まだ、このような機会が何回かあると思しますので、その時、また、質問させていただきます。
- 議長 堀 広一 以上で一般質問を終わります。本日の日程は全て終了いたしました。本日はこれをもって散会いたします。

(午前11時25分散会)